令和7年3月7日

1. 出席議員

1番	高橋	信広	12番	堤	康幸
2番	花下	主茂	13番	石橋	義博
3番	坂本	治郎	14番	牛島	孝之
4番	水町	典子	15番	服部	良一
5番	古賀	邦彦	16番	中島	信二
6番	久間	寿紀	17番	栗原	吉平
7番	原田	英雄	18番	三角	真弓
8番	小山	和也	19番	森	茂生
9番	高山	正信	20番	栗山	徹雄
10番	川口	堅志	21番	川口	誠二
11番	田中	栄一	22番	橋本	正敏

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長	古賀	好子
事務局長補佐	加藤	邦博
事務局参事補佐兼次長	樋口	安澄
書記	田中	浩章

4. 地方自治法第121条により出席した者

市 長	簗 原 悠太朗
副 市 長	原 亮 一
教 育 長	橋 本 吉 史
秘書広報室長	馬 場 浩 義
総 務 部 長	秋 山 勲
企 画 部 長	平 武 文
市 民 部 長	山 口 幸 彦
健康福祉部長	坂 田 智 子
建設経済部長	田 中 和 己
教 育 部 長	牛 島 新 五
総 務 課 長	清 水 正 行
人 事 課 長	古 村 和 弘
財 政 課 長	鵜 木 英 希
企画政策課長	石 橋 信 輝
商工・企業誘致課長	隈 本 興 樹
環 境 課 長	松 藤 洋 治
福 祉 課 長	遠 藤 宏 樹
子育て支援課長	末 崎 聡
健康推進課長	末 廣 英 子
介護長寿課長	前 田 加代子
農業振興課長	栗 原 勝 久
上下水道局長	松 尾 正 久
学校教育課長	栗 山 哲 也
黒木支所長	信 國 昌 明
矢部支所長	轟 晃 守
星野支所長	川 口 良 和

議事日程第6号

令和7年3月7日（金） 開議 午前10時

日 程

- 第1 議案審議
- ・質 疑（委員会付託）
 - ・討 論
 - ・採 決
- 第2 花宗用水組合議会議員の補欠選挙

本日の会議に付した事件

第1 議案審議

- 議案第16号 八女市障害児学童保育所条例を廃止する条例の制定について
- 議案第17号 八女市星野自給肥料供給施設条例を廃止する条例の制定について
- 議案第18号 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について
- 議案第19号 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について
- 議案第20号 八女市過疎地域持続的発展計画の変更について
- 議案第21号 福岡県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の減少及び福岡県市町村職員退職手当組合規約の変更について
- 議案第22号 令和6年度八女市一般会計補正予算（第9号）
- 議案第23号 令和6年度八女市国民健康保険事業費特別会計補正予算（第2号）
- 議案第24号 令和6年度八女市介護保険事業費特別会計補正予算（第3号）
- 議案第25号 令和6年度八女市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）
- 議案第26号 令和6年度八女市矢部診療所特別会計補正予算（第3号）
- 議案第27号 令和6年度八女市水道事業会計補正予算（第2号）
- 議案第28号 令和6年度八女市下水道事業会計補正予算（第2号）
- 議案第29号 令和7年度八女市一般会計予算
- 議案第30号 令和7年度八女市国民健康保険事業費特別会計予算
- 議案第31号 令和7年度八女市介護保険事業費特別会計予算
- 議案第32号 令和7年度八女市後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第33号 令和7年度八女市矢部診療所特別会計予算
- 議案第34号 令和7年度八女市黒木町串毛財産区特別会計予算
- 議案第35号 令和7年度八女市黒木町木屋財産区特別会計予算
- 議案第36号 令和7年度八女市水道事業会計予算

議案第37号 令和7年度八女市下水道事業会計予算
第2 花宗用水組合議会議員の補欠選挙

午前10時 開議

○議長（橋本正敏君）

おはようございます。本日、議案審議でございます。最後まで慎重審議のほどよろしくお願いたします。

お知らせいたします。議案質疑表、高橋議員要求の議案質疑資料及び委員会・分科会日程表をタブレットに配信いたしておりますので、よろしくお願いたします。

ただいまの出席議員数が定足数に達しておりますので、本日の会議は成立いたしました。

直ちに本日の会議を開きます。

議事日程につきましては、会議規則第19条ただし書の規定により、タブレットに配信しておりますので、御了承願います。

日程第1 議案審議

○議長（橋本正敏君）

日程第1. 議案審議を行います。

議案第16号 八女市障害児学童保育所条例を廃止する条例の制定についてを議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

議案第17号 八女市星野自給肥料供給施設条例を廃止する条例の制定についてを議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第17号は原案のとおり可決されました。

議案第18号 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定についてを議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第18号は原案のとおり可決されました。

議案第19号 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更についてを議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第19号は原案のとおり可決されました。

議案第20号 八女市過疎地域持続的発展計画の変更についてを議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第20号は原案のとおり可決されました。

議案第21号 福岡県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の減少及び福岡県市町村職員退職手当組合規約の変更についてを議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第21号は原案のとおり可決されました。

議案第22号 令和6年度八女市一般会計補正予算（第9号）を議題といたします。

本案は委員会付託案件であります。議案質疑の通告もございませんので、質疑を終結します。

本案につきましては、委員会条例第6条第1項の規定により、予算審査特別委員会を設け、付託の上、審査をすることにしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は予算審査特別委員会を設け、これに付託の上、審査することに決しました。

委員会条例第6条第2項の規定により、委員の数についてお諮りいたします。

委員の数は議長を除く21人にしたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、委員の数は21人とすることに決しました。

正副委員長の互選をお願いいたします。

先例によりますと、委員長に副議長、副委員長に総務文教常任委員長となっております。今回はいかがいたしましょうか。

〔「先例」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

先例どおりという発言がございました。先例のとおりでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

それでは、先例に従い、委員長に高橋副議長、副委員長に服部総務文教常任委員長とすることに決しました。

審査の必要上、会議規則第98条の規定により、分科会を設け、審査していただきますようお願いいたします。

議案第23号 令和6年度八女市国民健康保険事業費特別会計補正予算（第2号）を議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第23号は原案のとおり可決されました。

議案第24号 令和6年度八女市介護保険事業費特別会計補正予算（第3号）を議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第24号は原案のとおり可決されました。

議案第25号 令和6年度八女市後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）を議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。

います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第25号は原案のとおり可決されました。

議案第26号 令和6年度八女市矢部診療所特別会計補正予算（第3号）を議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第26号は原案のとおり可決されました。

議案第27号 令和6年度八女市水道事業会計補正予算（第2号）を議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第27号は原案のとおり可決されました。

議案第28号 令和6年度八女市下水道事業会計補正予算（第2号）を議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、全員賛成であります。よって、議案第28号は原案のとおり可決されました。

議案第29号 令和7年度八女市一般会計予算を議題といたします。

本案は委員会付託案件であり、2名の議案質疑通告がありましたので、通告順に質疑を許します。1番高橋信広議員の質疑を許します。

○1番（高橋信広君）

それでは、議案第29号 令和7年度八女市一般会計予算の質疑を行います。通告に基づいて4点お聞きしたいと思います。

最初に、2款1項6目、大阪・関西万博地方創生SDGsフェス事業ということですが、この事業は当然初めてですが、採択された経緯、それと、企画概要についてお聞きしたいと思います。

○企画政策課長（石橋信輝君）

御説明申し上げます。

まず、今回のこのSDGsフェスにつきましては、8月に募集がかかりまして10月に応募いたしましたところ、翌月、11月に当選の連絡をいただいたという運びでございます。

事業の概要でございますけれども、期間が令和7年5月28日から6月1日の間に出版という形で、会場内にブースを設けて、そこで、本市としましては、八女茶のプロモーションを実施するという運びでございます。八女茶を通しまして八女ブランドを国内のみならず世界

に発信していきたいということで考えております。

以上です。

○1番（高橋信広君）

この中で、当選ということは抽せんか何かと思いますが、県内でというより全国で私が知る限りは、基礎自治体としては20自治体ほど、都道府県で15程度ということで書いてあったと思います。そういう中で、福岡県でどこかあるのか。

それと併せてお聞きしますが、このプロモーション、具体的な、例えば、企画概要の中で、ブースのイメージパスとか、そういうのも提案されていると思いますが、できればそういうことを含めて、全協の中でもこういう流れになるということで示していただきたいんですが、その辺りを含めて御回答いただければと思います。

○企画政策課長（石橋信輝君）

まず、今回採択を受けました自治体の数につきましては、単独での出展が全国で32ということで伺っております。福岡県内におきましては、本市以外では宗像市のほうが採択を受けているということです。あと、県とかとの共同出展が19自治体あるということで伺っております。

そして、ブースのイメージですけれども、規模的には3メートル掛ける3メートルの規模でございまして、人気ゲームコンテンツの桃太郎電鉄というものがあるとは思いますが、これとコラボして、来場者は、リアル桃鉄といいますか、すごろくのゲームがあるんですけれども、そういった楽しみ方をしながら各自自治体の展示ブースを巡るといった形に、そういう演出になっております。

本市のブースでは、お茶の基本的な知識を学んでいただいたりとか、試飲をいただいたりとか、本物のお茶に触れていただくとか、そういった機会を通じて八女茶のアピールをやりたいと思っております。

当日、会場のほうには、この期間中、市長にも行っていただきたいと思っておりますし、また、茶業関係者、こういったところとも連携を取りながら、より八女茶の魅力を来場される皆様にどう魅力的に伝えるか、ここについては、関係部署とも詳細は今詰めている段階でございまして、楽しんで訪ねていただける、そういったブースを作りたいと考えております。

以上です。

○1番（高橋信広君）

市長にお聞きします。

今回のこの事業というのは、八女茶を通して八女ブランドを国内のみならず世界に発信するという言葉があります。そういう意味では、市長の言われる八女を世界へというところを

アピールする千載一遇のチャンスと捉えておりますが、市長のトップセールスの場として大いにアピールしていただきたいと思いますが、市長の思いと意気込みをぜひ聞かせてください。

○市長（簗原悠太郎君）

お答え申し上げます。

今回のこの大阪・関西万博の中の地方創生SDGsフェスは、八女市にとっても世界に八女市の魅力を発信するまたとないチャンスだと考えております。

万博、今様々な議論、賛否両論を含め行われておりますけれども、やはり世界中からいろんな方が集まってくる、まさにこの「八女を世界に！」という私の市政を行うに当たってのテーマを実現するに当たっての非常に貴重な機会だと思いますので、私も公務の時間許す限り直接その場に行って、市の職員ですとか茶業関係者の皆様と一緒に、このお茶を中心に八女の魅力を自分自身の言葉でしっかり発信してまいりたいと思います。

どうしてもブースの大きさの都合で八女茶が中心ということになるんですが、私が話すことに関しては八女茶に限らずどういうことでも話せますので、しっかりと八女茶を中心にこの八女の様々な魅力を世界中に発信してまいりたいと思います。

以上です。

○1番（高橋信広君）

ぜひ八女を世界への第一歩になりますようによろしくお願ひしたいと思います。期待しています。

次に、2款1項6目の振興山村地域生活支援事業ですが、この説明書だけではもう一つよく理解できませんので、事業内容についてももう少し詳しい内容をお聞かせいただければと思います。

○企画政策課長（石橋信輝君）

御説明申し上げます。

本事業は、過疎化の著しい本市におけます振興山村地域を対象に、買物などの地域生活インフラの整備に係る支援を実施するものです。

具体的には、八女市振興山村地域生活支援事業を立ち上げ、官民連携による推進を図りたいと考えております。

特に過疎化が進む当該地域におきましては、地域生活インフラの整備を行おうとする民間事業者の存在というのは大変重要なものであるという一方で、地域としての需要が小さいといったリスクもあり、ネックになりがちです。そこで、このような民間事業者が行う整備事業に対し市が後押しを行うことで、民間事業者の進出や民間サービスの導入を促そうというものでございます。

ただし、じゃ、民間事業者は誰でもいいというわけではありませんが、支援対象とする事業者は、当該地域の地域課題を十分に理解した上で、地域生活の質の向上に関係する協定を締結し、持続可能な地域生活インフラの提供を行える事業者を考えておるところでございます。

以上です。

○1番（高橋信広君）

課長の説明ではこの説明書以上に分かりにくかったんですが、まず、これは買物拠点ですよ、生活支援、インフラという言葉の中に、もちろん交通網もあるし、電気等いろいろあるでしょうが、今回の場合はここにはっきりと買物拠点施設とありますから、それで間違いないですね。

それで、資料を頂いた中で、この実施要綱の中に、山村振興法の規定、その中に八女市の振興山村地域というのが確かに盛り込まれています。ただ、この山村振興法というのが今月いっぱい一旦終わりますが、延長になったというところは、ちょっとまだできるかどうかというのははっきり私は理解していないんですが、これははっきりと延長、向こう10年また延長になったかどうか、お聞かせください。

○企画政策課長（石橋信輝君）

10年間の延長につきましては、すみません、ちょっと確認をしなければいけません、10年間延長の方向で、全国的な山村振興の協会もございますので、そちらのほうでしっかり動いているということは認識しております。

○1番（高橋信広君）

しかし、これは要綱をつくられるということは、ここにはっきりと山村振興法ということをやっている限りはその確認をした上でこの要綱をつくるべきと思うんですが、もしこれが延長にならなかつたらどうするんですか。そこはお考えの上でやったんじゃないんですか。そこは早急に確認していただかないと、この要綱自体がおかしくなると思います。これは時間の関係でもうやめておきますが。

それで、この振興山村地域と八女市の中では5か所うたってあります。上陽の横山、黒木の大淵、笠原、それから、星野全域、矢部全域ということなんですが、今回の提案事業、これについてこれだけ絞ったという意味はどういうことなんですか。

○企画政策課長（石橋信輝君）

御説明申し上げます。

今回の事業につきましては、先ほど議員もおっしゃいましたように、買物拠点施設の整備に関する事で現在動いております。

経過をちょっと簡単に御説明しますと、将来的な買物支援の在り方につきましていろいろ

調査研究を行ってまいりました。その中で、某民間事業者が地域社会貢献を踏まえて過疎地域での買物拠点整備の構想があるということの情報を得ましたので、それを皮切りに、この事業者と本市の過疎化が進む地域における買物の状況等いろいろ情報提供を行ってきましたところ、今回、先方より過疎地域でのテストケースとして選定に至るところまで今話が展開しているという状況でございます。

このように、民間事業者といろいろ話をこれまでしてくる中で、ちょっと具体的なことが今申し上げられませんが、八女の中でも気軽に買物ができる、こういった買物拠点施設の整備が大体届く範囲というのが民間のほうでも一定エリアの考え方があるそうです。そういったところも参考にしながら、今回、振興山村のエリアという形でこの事業を考えさせていただいたところでございます。

以上です。

○1番（高橋信広君）

理解はしますが、これは実施要綱なので、地域の見直し等は後日でもできるのかなとは思っておりますが、これだけ絞るということについては少し違和感を感じたところでは。

というのは、事業者のほうあまり効率が悪いところは多分厳しいんじゃないかということも含めて、この辺は要綱の見直しは必要になっていくんじゃないかと思えます。

それから、これは先行投資というか、土地を購入してその整備をして、建築のほうは事業者がやってもらうという流れと思いますが、これをあえて新しいところに立地するという意味がもう一つ分からないんですが、既存のところを使うという手もあったと思いますが、そういうことをどう検討されたのか、よかったらこれもお答えいただけますか。

○企画政策課長（石橋信輝君）

御説明申し上げます。

場所については、これまでこの民間事業者さんとの話合いの中で、こちらとしてはこういう場所もありますよという情報も当然提供したわけでございますけれども、あくまで今回の予算要求に絡むところというのは、先方のほうが候補地を選定されてという流れになっておりますので、今回のような要求の内容になっております。

以上です。

○1番（高橋信広君）

それから、これは事業者としてはコンビニであったり、スーパーであったり、想定されるのはそういうところだと思うんですね。

そういう中で、今回、これは利益より社会貢献というところを重視されて進出されると認識しておりますが、想定以上に収益性が悪かった、こういうときに撤退というところの補償とか、そういうところは契約の中でしっかり結ぶということでしょうか。これについてお聞

かせいただければと思います。

○企画政策課長（石橋信輝君）

御説明申し上げます。

これまでの話合いの中で、経営状況とか、その辺に及んだ場合の話というのもやり取りしていますが、詳細につきましてはまた先方のほうの社内の中で、そこは十分な話合いを詰めていくということで伺っております。

現在の進捗状況としましては、まず連携協定、この締結という部分につきまして、最終的な調整段階に入っておりますので、早ければ3月末頃にはまず協定という形で動く。これまでの先方からの御説明を伺いますと、ある程度やはり採算のところも踏まえた中で、今回、候補地というものも考えられていらっしゃるということで伺っておりますので、懸念されるような課題がないような形で今後また先方との調整もやっていきたいと思っております。

以上です。

○1番（高橋信広君）

市長に伺います。

この事業は、ひょっとしたら市長のトップセールスの中で生まれたような気はしておりますが、中山間地対策としてこの事業をどう展開していこうとされているのか、これについてよかったらお聞かせいただきたいと思えます。

○市長（簗原悠太郎君）

お答え申し上げます。

本事業については、もともと担当課のほうで話を進めてくれていたところ、当然その事業者のほうもどこに立地するかというのは八女市以外も様々検討している中で、ぜひ八女市ということで私自身も直接本社のほうにお願いに行ったりしてきたところでございます。最終的にそれが成就するかは本当、事業者の判断になるわけですが、まず、そういった事業が1つうまくいく、そういったのを対外的に発信することで、八女市が自治体、市を挙げて、そういう事業者の社会貢献活動ですとか、そういった過疎地への出店を支援、後押しするというのが多くの事業者に知られることによって、今回の今交渉している事業者の方以外にもいろんな事業者の参入を後押しできるかなと、それが結果的にこの八女市全体の活性化、買物の利便性の向上につながると思えますので、まずはこの1つの事業をしっかりと成就させて今後につなげてまいりたいと考えております。

以上です。

○1番（高橋信広君）

この事業は、多分いろいろ調べる中では全国でも初めてじゃないかと思えますので、ぜひ最初の事業がいい方向に向いて、全国いろんなところの買物ができないところに対しての支

援策となることを期待しておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは次に、ふるさと納税、ちよつと関連しますので、併せてお聞きたいと思ひます。2款1項6目、ふるさと支援寄附事業と7款1項2目の商工振興費ということで、併せてお聞かせさせていただきます。

まず、ふるさと納税制度、これはいわゆる基準の見直しというところが、今年の10月ですか、ポイント付与を禁止するということになっております。これが本市に対して影響はどうあるのか、ちよつと気になるところなので、お聞かせいただければと思ひます。

○商工・企業誘致課長（隈本興樹君）

お答えいたします。

ポイント付与の禁止の影響でございますが、令和7年度は、禁止される前の8月、9月、この辺りで駆け込みで多くの寄附が集中することが予想されます。ですから、このタイミングを逃すことなく、情報発信やPR等、この時期に重点を置いて対策を講じてまいりたいと考えております。

中・長期的な面で見ますと、本市でもポイントがつく日についてはほとんど寄附額が上がる傾向にありますが、10月以降はこういったことは少なくなると思っております。ただ、これは本市に限ったことではなく、全国に同様の影響があると思っております。

しかしながら、ふるさと納税は返礼品がある制度で、寄附者には非常にメリットがある制度でございますので、このポイント付与がなくなることで寄附の規模が縮小する可能性は少ないと考えております。

以上でございます。

○1番（高橋信広君）

承知しました。

令和6年度については、今のところ16億円に達せるかどうかというところが見通しとして聞いておりますが、来年度、この拡大対策としてどのような方策を考えておられるのか、お聞きたいと思ひます。

○商工・企業誘致課長（隈本興樹君）

お答えいたします。

先日も申し上げましたけど、まずはポータルサイトの追加でございます。本年度7つのサイトを追加しておりますけど、倍増して14のサイトで寄附の間口を広げております。

また、これまでも取り組んでおりますけれども、返礼品事業者数の増加、また、返礼品の多様化に努めております。

新年度予算で地場産品の開発や既存商品のブラッシュアップに取り組まれる事業者に支援する新しい補助事業の予算を提案しているところでございます。

このように、常に新しい取組にチャレンジしながら寄附の拡大に努めてまいりたいと考えております。

○1番（高橋信広君）

今のポータルサイトなのですが、大分増やしていただいて、ただ、どこも同じやり方。課長も一回会っていただいたと思いますが、特異なやつで、久留米市に本社を持つ、ふるさとズというところがございます。ここは店舗型のふるさと納税ができる。例えば、ときめきに観光客の方が来られてふるさと納税をしたいというときに、そこで30千円していただいた。そしたら、9千円の商品券を渡してそこで買物もできるという仕組みですが、全国ではまだまだ少ないと思いますが、最近見ていると、広川町が西日本新聞にも結構出されて取り組んでいる。それから、隣の筑後市も大川市もということで、久留米市もですかね、筑後一帯が今広がっているような気がします。

この仕組みは、拡大策としては厳しいのかもしれませんが、どちらかといったら、ふるさと納税そのものの広報と、それから八女市をアピールする、それからもう一つは、運送費がこれにかからないですね。長い目で見たらCO₂削減につながるということも考えられますし、いわゆるこのポータルサイトを入れることで、八女市の次の仕組みとか、それから、拡大策の手段に使えるような気がするんですが、この辺り今検討されているかどうか、お聞きしたいと思います。

○商工・企業誘致課長（隈本興樹君）

お答えいたします。

以前お話しいただいたサイトの件だと思いますけど、まさに今日、夕方前にその業者とは打合せをする予定にしております。

1つは、着地型の観光であったり、うちは上陽にゴルフ場がありますので、そういったところには着地型としてのサイトとして活用は見込まれるのではないかと考えております。

また、八女茶の茶商さんがおられますので、お茶の業界についても非常にこのようなサイトは有効ではないかと考えております。

○1番（高橋信広君）

ぜひ導入いただければと思います。

次に、7款1項2目のことになりますけど、地場産品開発支援補助金ということなのですが、この制度設計の背景、それから、概要と見通しというところをお聞かせいただければと思います。

○商工・企業誘致課長（隈本興樹君）

お答えいたします。

この補助金の目的につきましては、ふるさと納税の返礼品を充実させていくこと、そして、

ふるさと納税だけでなく、今、インターネットであつたりスマホの普及で商取引の中でますます重要になっているECサイト、このECサイトを活用して、本市の事業者が販売促進する流れをつくる、こういったことを狙っております。

この補助金につきましては、補助金額は補助対象経費の3分の2以内で上限300千円としております。

ぜひこういった特産品を開発したいという事業者さんには活用いただいて、ヒット商品を生み出していきたいと考えております。

○1番（高橋信広君）

それと、この地場製品の、言葉では分かりますが、どの範疇を大体イメージというか、声をかけるとしても、地場製品としてどこまでを商品として開発されようというところなんです、そこについてお聞きしたいです。

○商工・企業誘致課長（隈本興樹君）

お答えいたします。

ふるさと納税の基準で総務省が地場産品基準を示しておりますけれども、これは大まかにいいますと、市内において生産をされたもの、また、原材料の主要な部分が八女市内で生産されていること、また、八女市内で返礼品の製造加工、その他工程のうち、主要な部分を行うことにより付加価値が生じていると、こういうことが基準となっております。

○1番（高橋信広君）

分かりました。

ふるさと支援寄附事業、これは全国的にはふるさと納税制度ですけど、私が知ったのはちょうど10年前でした。ふるさと納税の重要性も、その当時から研修を受けた中では、八女市にとって貴重な自主財源になるものということ、財源というところが1つ。

それからもう一つは、地域経済の活性化につながるということで今しっかり取り組んでいただいておりますので、この返礼品提供事業者の顧客拡大にぜひつながるようにやっていただきたいと思います。

それからもう一つは、当時はまだ160,000千円程度でした。10年後でちょうど10倍になっています。ぜひ20億円を目指して取り組んでいただいて、20億円も、次のステップは待っていますので、ぜひ期待しておりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

以上で私の質疑を終わります。

○議長（橋本正敏君）

1番高橋信広議員の質疑を終わります。

続きまして、19番森茂生議員の質疑を許します。

○19番（森 茂生君）

まず最初に、議案第29号 令和7年度八女市一般会計予算のうち、2款1項の中で、星空保護区予備調査業務委託料というのがありますけれども、概略説明をお願いいたします。

○星野支所長（川口良和君）

お答えいたします。

事業の概要ですが、まず、星空保護区とはどういう制度なのか申し上げますと、世界24か国70支部以上を有している国際ダークスカイ・インターナショナルが認定する国際基準の認定制度でございます。公害の影響のない美しい夜空の魅力や星空の保護をするための制度で、2001年から始まった制度であります。

この星空保護区の認定を受けるためには、複数の要件がございます。予備調査では、この要件を満たしているかどうかの課題整理や地域への理解と協力を受ける必要があるために、星野地区におきまして、大学と連携して調査、住民への理解を求めるための啓発活動を行いながら、地域の誇りである星空の美しさの魅力を外へ発信して、観光資源につなげて地域活性化を図っていくために取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

○19番（森 茂生君）

そしたら、日本でも4か所程度になるかと思っておりますけれども、旧星野村、今でも星野村ですけれども、そこ全体をその地域とするのか、それとも、天文台がある地域に限定するのか、そこら辺の範囲はどうなっているのか、お尋ねします。

○星野支所長（川口良和君）

お答えいたします。

令和7年度のこの予備調査の中で、まず、星野ふるさと公園のエリアを限定するのか、星野支所管内全体を限定するのかという調査をまずしたいと考えております。

それと、今現在、国内に4か所認定を受けておりますが、そもそもエリア的には旧星野村ぐらいのエリアでの認定を受けているという情報になっております。

以上です。

○19番（森 茂生君）

おおむね旧星野村ということだろうと思います。

そしたら、大学と連携となっています。どこの大学でしょうか。

○星野支所長（川口良和君）

お答えいたします。

連携する大学ですけれども、2019年から星野地区におきまして天文学の調査研究を行っております法政大学、そちらに学際宇宙ゼミナールという星にちなんだ学部がございます。そちらのほうが天文文化、地方創生の研究を行っておりますので、また、星空保護区に関する

知見もかなり深いということで、この保護区の認定を円滑に推進できる団体ということで考えております。

以上です。

○19番（森 茂生君）

分かりました。

それでは、ずばりお尋ねしますけれども、認定される可能性はどの程度と想像していらっしゃいますか。

○星野支所長（川口良和君）

お答えいたします。

今現在、日本国内に4か所認定を受けている地区がございますが、現在、把握しているその4か所のデータを見る限り、既にこの星野地区の夜空の観測データ等を併せまして同レベルとなっております。

それとまた、今現在、星野文化館を中心として天文学の啓発活動を大学側とやっておりますが、そういった活動がこの認定の基準の中に入っておりますので、そういった部分を含めると十分認定を受けることができると考えております。

以上です。

○19番（森 茂生君）

十分認定ができるというお考えで、今後、その認識に基づいて調査されるんだろうと思いますけれども、私もよその認定されたところを見てみますと、条件が結構厳しいのかなと。そのためには、ただ単に地域にお願いするだけではなく、条例制定が2か所で行われております。条例制定までお考えなのか、そこら辺のところをお尋ねします。

○星野支所長（川口良和君）

お答えいたします。

まず、条例制定が義務となっているエリアにつきましては、八女市全体で認定を受けるとなると条例が必要になってきます。それと、この保護区の中でも4つほどカテゴリーがございます。その中でも条例が伴う部分と伴わない部分がございます。そういった部分も含めて1年間かけて調査をしていきたいと考えております。

以上です。

○19番（森 茂生君）

私も条例を見て、かなり厳しい条例なんです。例えば、点灯時間は施設や店舗などは閉店・開店時刻をもって消灯するとか、屋外照明広告看板は日没時刻の1時間後以降から日の出の1時間前まで点灯は駄目だというのがいろいろあります。そして、まして看板を下から照らす、そういうのも駄目だ。恐らく外灯——防犯灯といいましょうか、あれも全て変えて

あるんですね。ここら辺も、神津島では563個、それと、岡山県の美星町、今は井原市美星町というようですけれども、ここはわざわざパナソニックに行って外灯の説明を受けて造っていただいて、その外灯に替えてあります。それが760個ということです。そのように、外灯、これは道路が下にありますので、水銀灯とかグラウンドの夜間の照明、こういうのを考えると相当頑張っていかないと、あるいは条例まで踏み込まないと無理じゃないのかなという気がしたんですよ。そこら辺、現時点で結構ですけれども、どのようにお考えであるのか、お尋ねします。

○星野支所長（川口良和君）

お答えいたします。

まず、条例も令和7年度からの予備調査の中で当然考えていく必要があると思います。

しかしながら、今現在、うちのほうで把握しております認定を受けるための暗さの指数の測定がございまして、この世界基準が21.2マグニチュードパー平方秒角という数字です。その21.2マグニチュードパー平方秒角以上あれば認定基準内に入るということで、今現在、星野支所の真上ですけれども、そちらのほうで暗さの指数測定を大学のほうにさせていただきましたら21.4マグニチュードパー平方秒角ということで、世界基準を上回る基準ということになっております。

そうしますと、今現在、外灯とか、そういった部分の対策をせずして基準をクリアしているという状況でございますので、その辺りはまた1年間の調査研究に従いまして条例等も考えていきたいと思っております。

以上です。

○19番（森 茂生君）

そのような調査があればもう安心していただけますけれども、ぜひ認定ができますよう頑張りたいと思っております。

次に、環境保全型農業直接支払事業についてお尋ねをいたします。

それこそ聞き慣れない事業ですので、どういった事業なのか、概況説明をお願いします。

○農業振興課長（栗原勝久君）

御説明申し上げます。

環境保全型農業直接支払事業につきましては、平成26年度にできておりまして、農業、農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、御承知と思いますが、中山間地域等直接支払、それから、多面的機能支払と併せまして日本型直接支払制度として位置づけられて、平成27年度より実施されている事業でございます。

具体的には、この事業については、自然環境の保全に資する生産方式を導入した農業生産活動を推進するための活動支援など、高度な多面的機能発揮のための取組支援ということで

すけれども、支援活動として、化学肥料、あるいは化学合成農薬を原則5割以上低減する取組と併せて、地球温暖化防止とか、生物多様性の保全とか、効果の高い営農活動への支援ということになっておりまして、具体的にこの八女市での取組につきましては、有機農業の取組、それから、新たに令和7年度から緑肥、いわゆる地力増進作物等による土壌改良、そういったところの取組を8名の方で予定しているところでございます。

以上でございます。

○19番（森 茂生君）

八女市は農業のまちとよく言われますけれども、この有機農法、農業関係が私は弱いんじゃないかと常々思っておりました。今までの結果について、ここに書いてあります。目標15戸に対して8戸が現在あるということです。そして、とりわけ農家数が伸び悩んでいる原因を的確に分析した上で向上対策に取り組むとあなた方が言われているわけです。

ですから、逆に言うて、きちっとした有機農法をやっている人は今のところ、表になったのは8戸だけということだろうと思います。中には個人的に生協に販売したり、それなりに地道にやっぴらっしゃる方は相当多いと思います。

ですから、そういうところの把握はできているのか、そういうところと、例えば、どこにどういう人が有機農法しよるといふ調査はされたかどうかをお尋ねします。

○農業振興課長（栗原勝久君）

御説明いたします。

お尋ねの有機農業の実態につきましては、詳細な把握はできておりません。おおむね地域では進んでいないというのが実態であるということは認識しております。

お茶を中心にこの事業も一部の農家で取り組まれているのが現状でございまして、JAの共販の状況を見ましても、有機栽培での取組はないということだと思っておるところでございます。全国的にも0.6%、1%に満たないような、世界と比較しますと遅れている現状であると思います。

言われるように、個人的にお茶農家さんとか輸出の取組については、やはりきちんとしたGAP認証を取られたりとか、それぞれの基準を勘案しながら取組を進めておられますので、そういった農家でありながら事業者という形で先見的に取り組んでおられる方はお茶を中心におられるのかなというところでの状況で説明に代えさせていただきます。

○19番（森 茂生君）

ですから、やっぱりそういう農家は、きちっと台帳的に一度把握をされるべきだろうと私は思っております。

そして、担当課が言っているように、伸び悩んでいる要因を的確に分析しになっています。非常にいろんなところでこの有機農法関係、あるいは農薬を減らす、やられております。で

すから、そういうのを当然御存じかと思えますけれども、伸び悩んでいる要件はどのように分析されたのか、お伺いします。

○農業振興課長（栗原勝久君）

御説明をさせていただきます。

有機農業につきましては、御承知かと思えますけれども、やはり基準が厳しくなっておりまして、隣接農地間の農薬の飛散、いわゆるドリフトという問題がありますし、有機認証でいきますと、やはり播種、植付けと2年以上そういった化学肥料等を使えないということで、3年認証においても一定準備期間というのも出てまいります。

当然、無農薬、化学肥料を使わない、そういった中では、技術的にも高度な技術を要してきますし、当然、農薬を使えないならば除草作業も大変になりますし、また、そういった肥料、農薬等を抑えますと、当然、樹帯にも影響していきますので、樹帯の維持というものでもいろいろ生産現場では起こり得ます。

あとは有機認証のそういった現場での大変な手間、作業、人手不足、そういった分もありますし、やっぱりクリアすべきいろいろな諸問題、手続、また費用、そういった部分もネックじゃないかなというところで考えております。

以上でございます。

○19番（森 茂生君）

当然そういう問題は出てくるわけです。ですから、そこに行政が入って行って積極的に推進をする。そして、例えば、減収した分は一定額補填をする。それなりの対策を取らないと、自然任せではなかなか増えていかない、これが現状だろうと思えます。

令和6年度から令和9年度を目標として、全ての補助事業に対し最低限行うべき環境負荷低減の取組の実践を義務化するみどりのチェックが導入されますということで、有機農法の初歩的段階だと思えますけれども、令和9年度から義務化、もう直接、義務化ということでみどりのチェックというのが入ります。大きな規制じゃないんですけれども、なるだけ化学肥料は控えてください、無駄な農薬は散布しないでくださいという内容かと思えます。

みどりの食料システム戦略というのがありますけれども、例えば、農薬に関しては、2030年度までに使用量を10%、2050年度までに化学農薬を50%というように、国のほうも、地球温暖化の関係で農業関係にもずっとそういう提案、そういう方向に持っていく大きな流れが今も起きておりますので、このままじっとしておったんじゃ大きな遅れになってしまうと思っております。

それから、普通よく言いますよね、安心・安全、こういう言葉だけは幾らでも使えるんですよ。実際は、通常の農薬じゃなしに少しでも控える、あるいは半減する、あるいは完全に無農薬にする、やっぱりそういうのをたくさん作ってこそ、それこそ安心・安全な作物だろ

うと思います。一般的に農薬を振ったのは、新鮮であるかもしれませんが、胸を張って安心・安全ですよというのはあんまり説得力に欠けるとと思いますので、ここら辺が非常に弱いので、どうですか、市長、ここら辺で、きちっとしたよその事例がいっぱいあります。少しでも化学肥料を少なくする、あるいは低農薬、有機農法、こういうのを今から計画的に段階的にどんどん増やしていただきたい、私はそれが八女市を活性化する一つの大きな方向づけだろうと思います。地味ではあるけれども、方向づけだと思います。それだからこそ、世界に打って出る。ヨーロッパあたりで通常の、例えば、お茶なんかはもう規制が厳しくて、ヨーロッパあたりには輸出できないんですよ。やっぱりそうじゃなくして、世界に通用するような農産物を作るためには、どうしてもそこに有機農法関係が取り入れられなければならないと思いますけれども、市長のお考えをお伺いします。

○市長（簗原悠太郎君）

お答え申し上げます。

議員御指摘のとおり、農業分野における減農薬ですとか有機、そういった取組は、八女としても早急に取り組まないといけない課題だと考えております。

議員御指摘いただいたとおり、この有機、今後輸出を推進するためには、当然こういう有機対応というのは海外のほうが一般論として規制が厳しいことを鑑みますと、やはり積極的に取り組んでいかないといけないですし、また、みどりのチェックについても言及いただきましたけれども、輸出とか関係なく、今、環境負荷を軽減する、環境に優しい取組というのが農業に限らず、もう世界的にどういう分野でも求められているところでございます。

どうしてもそういった環境適応というのは、これまでコストとして捉えられていたところでございますけれども、農業に限らず、もうこれからは環境に優しいというものが当たり前、環境に優しいというのがその製品やサービスの付加価値につながると思いますので、そこはしっかり、ただ、まず一歩目の取組というのはどうしてもお金や労力がかかる、そこはしっかり市としても後押しをしながら、環境への適応が将来的にはむしろ経済の活性化につながるというところをしっかりと事業者の方たちにも説明しながら、市を挙げて環境と経済の好循環を生み出していくことが必要だと思います。

したがって、そういった事業者の方のまず一歩目の取組というものはしっかり後押し、伴走してまいりたいと思います。

以上です。

○19番（森 茂生君）

よろしく申し上げます。

2点目の八女市地産地消推進協議会負担金についてですけれども、これも教育長には以前からかなり言っていますけれども、地産地消、特に学校給食に地域の食材を入れていただき

たいというのはかなり以前から言っていますけれども、現在までどうなっていますか。

○学校教育課長（栗山哲也君）

御説明します。

県内の地産地消ということで、県産品をどれだけ給食に利用しているかという……（「地元です」と呼ぶ者あり）地元の産品を利用しているかというのがございます。

そちらの指標を申し上げますと、令和6年度、一番直近の分でいきますと34.2%、遡りましては、令和5年度は34.6%、令和4年度は31.1%、令和3年度は29.6%ということで、随分、地元産品を利用している状況にございます。

以上です。

○19番（森 茂生君）

保育所、幼稚園、学校における食育の推進ということで、食物アレルギーとか肥満とかいろいろありますので、食生活の基盤をつくるため、教育の場での食育はますます重要になっていますとうたってあります。ここに成果指標と目標値が出ています。地元の農畜産物に関する指導の平均取組回数、現状が月に1回から2回、令和10年度、目標が2回から3回、学校給食における地元の農産物を使用する割合、先ほど言われましたように、現状が31.1%、令和10年度目標が30%、現状より低い目標なんですよね。これは一体、もう取り組まないつもりですか。

○学校教育課長（栗山哲也君）

御説明いたします。

議員おっしゃっているのは、この食育推進計画の数値かと思いますが、目標値が30%ということは低いんじゃないかということの御指摘かと思いますが。

先ほどちょっと申し上げましたけれども、これは令和4年度が31.1%ということでございます。その以前の分が数値的には、令和元年度が24.5%、令和2年度が33%、令和3年度が29.6%ということで、30%を下回るような状況の中でこの目標値を立てたこともございまして、30%以上は目標として利用したいという思いでこの目標値にしました。

○19番（森 茂生君）

令和4年度の現状値が31.1%です。令和10年度の目標は30%以上、逆に下がっているんですよね。せめて現状から少しぐらいは大きめの数字を出さないと、もうやりませんよと言っているように私は捉えるんですよ。時間がありませんので、これ以上言いませんけれども、またこれは改めて取り上げたいと思います。

最後の食育促進事業費補助金、これがどのように行われているか、お尋ねします。

○農業振興課長（栗原勝久君）

御説明申し上げます。

これはJ Aの青年部の中で食育を考える会という組織をつくっていただいております、その中で地域、市内の小中学校の14か所において食に関連した事業を積極的に取り組んでいただいております。

具体的には、お米なり芋なり、収穫体験とか、そういった食農教育について子どもたちに体験を通じて食への理解を図っているところでございます。

以上でございます。

○19番（森 茂生君）

やっぱり子どもたちに体験をさせると非常に私は効果的と思っております。ですから、それこそ農業が中心のまちですので、これをぜひ今以上に積極的に取り入れていただいて食のほうに関心を持つような子どもたち、自分の食はきちっと把握できて、買ったものばかりではなく、やっぱりそういう関心を高めるためにも学校教育でぜひ力を入れていただきたいと思っています。教育長いかがでしょうか。

○教育長（橋本吉史君）

お答えをいたします。

私も体験というのが一番大事だろうと思っています。

先日も質問の中でいただいていたけれども、八女市では今の食の推進事業の中で「お茶の淹れ方教室」というのを中学校1年生で全部やります。やっぱり家に急須がないところがほとんどというか、とても多いんです。ですので、そこで農協の方々から教えていただいて、それを入れて、そして、帰りにお茶っ葉を持たせて家で入れてくださいといろいろとやっています。それがとてもいい経験になって大事だろうと思いますので、お茶に限らず、ブドウのシャインマスカットを作ったりもしていますので、そういったことも含めてこれからも体験活動をどんどん取り入れていきたいなと思っております。

○19番（森 茂生君）

今以上に取り入れられるだろうという期待を持ちまして、私の質疑を終わります。

以上です。

○議長（橋本正敏君）

19番森茂生議員の質疑を終わります。

以上で質疑を終結します。

本案につきましては、先ほど会議規則第36条第1項の規定により設置されました予算審査特別委員会に付託をいたします。

11時30分まで休憩します。

午前11時19分 休憩

午前11時30分 再開

○議長（橋本正敏君）

休憩前に引き続き再開いたします。

議案第30号 令和7年度八女市国民健康保険事業費特別会計予算を議題といたします。

本案は委員会付託案件であります。議案質疑の通告もございませんので、質疑を終結します。

本案につきましては、先ほど会議規則第36条第1項の規定により設置されました予算審査特別委員会に付託いたします。

議案第31号 令和7年度八女市介護保険事業費特別会計予算を議題といたします。

本案は委員会付託案件であります。議案質疑の通告もございませんので、質疑を終結します。

本案につきましては、先ほど会議規則第36条第1項の規定により設置されました予算審査特別委員会に付託いたします。

議案第32号 令和7年度八女市後期高齢者医療特別会計予算を議題といたします。

本案は委員会付託案件であります。議案質疑の通告もございませんので、質疑を終結します。

本案につきましては、先ほど会議規則第36条第1項の規定により設置されました予算審査特別委員会に付託いたします。

議案第33号 令和7年度八女市矢部診療所特別会計予算を議題といたします。

本案は委員会付託案件であります。議案質疑の通告もございませんので、質疑を終結します。

本案につきましては、先ほど会議規則第36条第1項の規定により設置されました予算審査特別委員会に付託いたします。

議案第34号 令和7年度八女市黒木町串毛財産区特別会計予算を議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、賛成多数であります。よって、議案第34号は原案のとおり可決されました。

議案第35号 令和7年度八女市黒木町木屋財産区特別会計予算を議題といたします。

本案について質疑を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

質疑を終結します。

本案につきましては、会議規則第36条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、本案は委員会付託を省略することに決しました。

討論を行います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

討論を終結し、採決します。

本案に賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔押しボタン式投票〕

○議長（橋本正敏君）

押し間違いはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

なしと認め、確定いたします。

採決の結果、賛成多数であります。よって、議案第35号は原案のとおり可決されました。

議案第36号 令和7年度八女市水道事業会計予算を議題といたします。

本案は委員会付託案件であります。議案質疑の通告もございませんので、質疑を終結します。

本案につきましては、先ほど会議規則第36条第1項の規定により設置されました予算審査特別委員会に付託をいたします。

議案第37号 令和7年度八女市下水道事業会計予算を議題といたします。

本案は委員会付託案件であります。議案質疑の通告もございませんので、質疑を終結します。

本案につきましては、先ほど会議規則第36条第1項の規定により設置されました予算審査特別委員会に付託をいたします。

日程第2 花宗用水組合議会議員の補欠選挙

○議長（橋本正敏君）

日程第2. 花宗用水組合議会議員の補欠選挙を行います。

花宗用水組規約第5条第4項の規定に基づき補欠選挙を行います。

お諮りいたします。選挙の方法につきましては、地方自治法第118条第2項の規定により、指名推選によりたいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、選挙の方法は指名推選によることに決しました。

お諮りいたします。指名の方法については、議長が指名することにいたしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、議長において指名することに決しました。

花宗用水組合議会議員に国武俊克氏を指名いたします。

ただいま議長において指名いたしました国武俊克氏を花宗用水組合議会議員の当選人と定めることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（橋本正敏君）

御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました国武俊克氏は花宗用水組合議会議員に当選されました。

会議規則第31条第2項の規定により、後刻、当選告知をいたしますので、御了承を願います。

以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしました。

議案審議が本日で終わりましたので、10日は休会となります。

会期日程に従い、11日からは委員会分科会となっております。審査のほどよろしくお願
いたします。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午前11時38分 散会